

2018年7月31日

長期の運用実績があるファンドが注目される

- 日本株式では、長期の運用実績があり、良好なパフォーマンスを示しているアクティブファンドへの資金流入が目立っている。
- その背景には、新規設定ファンドを控える動き、また、低コストのインデックスファンドに対する対抗と考えられる。
- マザー市場である日本株式に投資するファンドのなかには良好な運用成績を有しているアクティブファンドも多く、そういったファンドが注目され、資金が集まることは望ましい姿と言えよう。

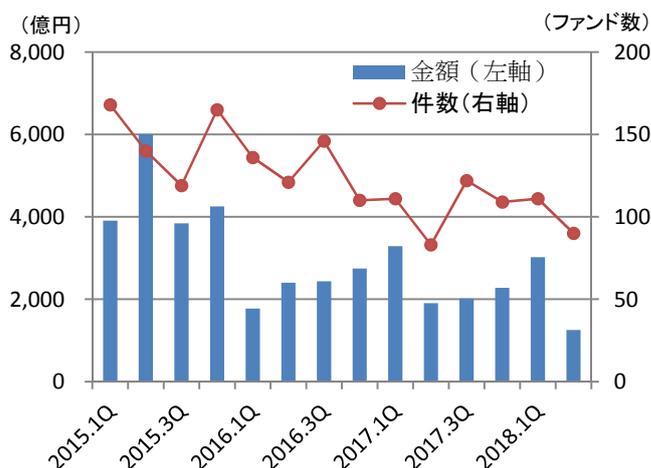


1. 日本株式では、長期の運用実績を有するファンドへの流入が目立つ

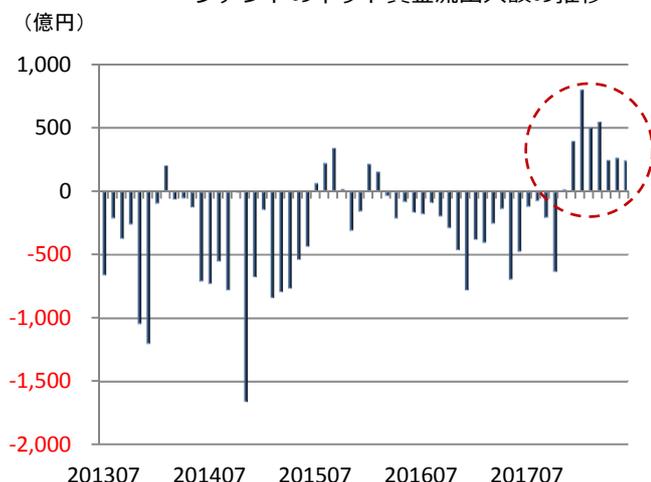
最近、日本株式ファンドにおいて、長期の運用実績があり、パフォーマンスが比較的良好なアクティブファンドへの資金流入が目立つ。この背景には、新規ファンドの設定を控える動きや、費用の低いインデックスファンドへの対抗という意味合いが感じられる。

顧客本位の業務運営において、過度な新規ファンドの設定と投信の入れ替えによる短い投信保有期間が課題とされるなか、新規設定は控えられる傾向にある。また、つみたてNISAの開始によって、従来より徐々に残高を伸ばしてきた費用水準の低いインデックスファンドがより強く意識されるようになっている。

図表1 新規設定ファンドの四半期毎の推移（3年間）



図表2 10年以上の運用実績を有する日本株式ファンドのネット資金流出入額の推移



そういったなか、既存のアクティブファンドの中で、費用を上回って良好なパフォーマンスを提供し続けているファンドを取り上げる動きが徐々に広がっているものと思われる。これは結果として、顧客に長期的に優良な実績を示しているファンドを提供するという本来の望ましい姿を示していると言えるのではないだろうか。

特に日本株式ファンドにおいてその傾向がみられるのは、アベノミクス以降の日本株式市場が好調であったことに加え、マザー市場として数多くのアクティブファンドがあり、その中には良好な運用成績を残しているファンドが多数存在していることによるものと推察される。

2. 直近1年間のネット資金流入の約4割に相当

10年以上の運用実績があるアクティブファンドのなかで、直近1年間のネット資金流入額上位30ファンドのうち、日本株式ファンドが13ファンドを占める(図表3)。同期間における日本株式アクティブファンドへのネット資金流入額は8千億円強であるが、これら13ファンドへの流入額は約4割に相当する。「三井住友・げんきシニアライフ・オープン」(三井住友アセット)、「新成長株ファンド(グローイング・カバース)」(明治安田アセット)は、日本株式アクティブファンド全体の資金流入ランキングでも、それぞれ3位、5位にランクインした。

図表3 10年以上の運用実績がある日本株式ファンドのなかで、ネット資金流入上位ファンド(直近1年間)(単位:億円)

ファンド正式名	投信会社	純資産	直近1年間	直近6カ月
三井住友・げんきシニアライフ・オープン	三井住友	903	859	574
新成長株ファンド(グローイング・カバース)	明治安田	873	627	476
MHAM新興成長株オープン(J-フロンティア)	AM-One	626	484	377
JPMザ・ジャパン	JPMオルガン	1,016	209	197
MHAM日本成長株オープン	AM-One	310	207	167
日興グローイング・ベンチャーファンド(グローイング・ベンチャー)	日興	347	202	145
スパークス・M&S・ジャパン・ファンド(華咲く中小型)	スパークス	273	176	50
ジャパニーズ・ドリーム・オープン	三菱UFJ国際	205	176	84
SBI小型成長株ファンドジェイクール(jcool)	SBI	241	159	101
スパークス・新・国際優良日本株ファンド(厳選投資)	スパークス	1,013	151	161
日本新興株オープン	日興	238	103	96
フィデリティ・日本成長株・ファンド	フィデリティ	4,051	101	178
小型株ファンド(グローイング・アップ)	明治安田	263	100	58

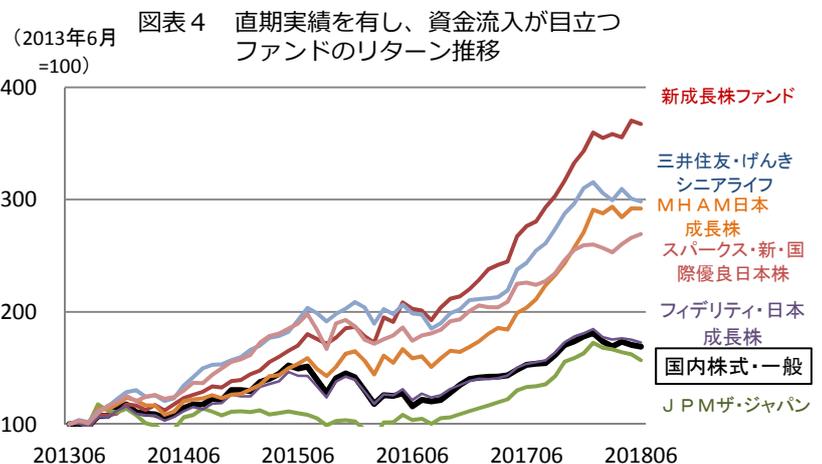
3. これらのファンドは、良好なパフォーマンスを有している

上表(図表3)のファンドには、中小型や新興企業を主な投資対象と謳うファンド(7本)、また、TOPIXなど株式市場全体の銘柄を投資対象としつつ、グロース(成長)株への投資に軸足を置くファンドが目立つ。いずれも最近までは比較的良好な投資環境にあったタイプだ。

これらの運用スタイルの厳密な線引きは難しいが、図表4は、そのうち株式市場全体の銘柄を主要投資対象とする比較的オーソドックスな運用スタイルのファンドのリターン推移を示している。

それらは、アクティブ型の同類ファンド(図中の黒線、「国内株式・一般」)を上回っているファンドが多い。紙面の制約から図示できないが、中小型株や新興株を主な投資対象と謳うファンドでも、ネット資金流入が多い上記のファンドは、同類ファンドのリターンを上回っている。

長期の運用実績を有し、良好なリターンを提供するファンドに資金が集まることは望ましい姿であり、今後もこの傾向が継続することを期待したい。



※本レポートにおける公募販売ファンドは、ETF、ラップ専用、DC、公社債投信を除く、追加型投資信託を対象としている。

- 本レポートに関する著作権、知的財産権等一切の権利は三菱アセット・ブレインズ株式会社（以下、MAB）に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。
- 本レポートは、MABが信頼できると判断した情報源から入手した本レポート作成基準日現在における情報をもとに作成しておりますが、当該情報の正確性を保証するものではありません。
- MABは、本レポートの利用に関連して発生した一切の損害について何らの責任も負いません。
- 本レポート中のグラフ・数値等は、あくまでも本レポート作成基準日までの過去の実績を示すものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 本レポートは、情報提供を目的としたものであり、投資信託の勧誘のために作成されたものではありません。

【照会先】

三菱アセット・ブレインズ株式会社

アナリスト・グループ

標・吉田・福本・勝盛

03-6721-1039

analyst@mab.co.jp

〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館8階

URL: <http://www.mab.jp/>

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1085号

加入協会名 一般社団法人 日本投資顧問業協会